

やまなしライフサポート

LS YAMANASHI LIFE SUPPORT

NEWS LETTER 8号 2016年10月発行

NPO 法人やまなしライフサポート

〒400-0836 甲府市小瀬町 654

山梨カトリック福祉センター

TEL/FAX 055-241-2545

E.Mail yls@mx6.nns.ne.jp

ホームページ <http://yls.or.jp/>

炊出し、「400回」の歩み

2008年リーマンショックという世界的な金融危機により日本全国に不況の波が押し寄せ、東京の日比谷公園は派遣切りにより突然職と住居を失った人々で溢れていました。急遽テント張りの「年越し派遣村」が設立され、ボランティアによる炊き出しや福祉の手続きが行われました。全国各地で同じような現象が現れ、「貧困」が大きな社会問題となり始めました。

山梨県においても甲府駅を中心に職と住居を失い空腹を抱えた路上生活の方々が集まっていました。2008年12月30日それらの方々のために、とりあえず暖かい味噌汁とおにぎりを食べてもらおうと、数人の有志と労働組合関係、宗教関係の数団体が中心になって甲府カトリック教会を会場にして、第一回目の炊き出しが実施されました。

これを機に、やまなしライフサポートは路上生活者や生活困窮者の支援団体として活動を開始し、橋の下や公園の見守りパトロールも毎月実施するようになりました。翌年の2009年12月27日には第一回「年末交流食事会」が行われ、ボランティアとして支援者が80名、利用者が54名参加しました。食事会と並行して参加者のために医療、住宅、生活、雇用の相談コーナーが設けられ、各専門分野の方々が相談に対応し、必要な場合は関係組織へ繋げる働きをしました。これは大々的に県内のマスコミでも取り上げられ、以後毎年この年末交流食事会は12月23日に日を定めて行われ、今年度で第8回目を迎えることとなります。

現在行われているような毎週木曜日の炊き出しは、2010年1月から実施され、多くの熱意ある個人と団体に支えら

NPO 法人やまなしライフサポート理事長 中山八十司

れながら通算で400回を迎えました。開始当初の統計によりますと、参加者の約20%の方が路上生活者、住居はあるが生活に困窮している方50%、生活保護受給者が30%でありました。大半の利用者たちはお互いに言葉を交わすことも目を合わせることもなく、ただ黙々と食事を済ませて席を去っていきました。

回を重ねるごとに、炊き出しは単に生活に困窮している方々の空腹を満たすだけでなく、会場準備、料理、配膳、後片付け等を担ってくださるボランティアの方々との交流の場へと変化してきました。参加される方々の表情も明るくなり、相互の人的な繋がりや信頼関係が生まれることにより、利用者だけではなくスタッフやボランティアの方々にとっても共生の場、温かみのある居場所となってきました。

相互の信頼関係が構築されることにより、利用者が進んでボランティア活動に参加するようになると同時に、「どこの橋の下に足が不自由で来られない人がいる」、「あの公園にも野宿しているお爺さんがいるよ」などと、炊き出し会場に来られない方々の情報をスタッフに知らせてくれるようになりました。これらの情報を基にして甲府市、甲斐市、笛吹市にある18の橋と10の公園で路上生活をしていた約40名の方々に温かい手作りのお弁当を届けてきました。

炊き出しから進化して生まれた新しいライフサポートの活動、「弁当配布」は6年間続けられてきました。しかし、橋の下に金網が設置されたり、公園のベンチが整理されたりして路上生活者が県内の橋や公園を住居とすることが不可能になったために、2016年6月でこの活動は終わりました。

2016 年前半期の主な活動実績

2016年4月～2016年9月 人数は延べ数

炊出し（弁当配布含む）	931名（24回）	緊急一時宿泊（ライフ荘）	28名（224泊）
健康相談	180名（25回）	生活保護申請同行	15名（受給実績6名）
路上生活者面談	141名（108回）	就労相談、就労サポート	43名（就労実績7名）
生保・年金受給者面談	40名（54回）	見守りパトロール	104名（48回）

【特集】炊出し400回

炊出しの役割

炊出しには単に食事を提供するだけではなく、他に3つの役割(機能)があります。

1. 居場所、交流の場

利用者には、一人暮らしで身寄りのない高齢者の方が大勢おられます。家にこもりがちな方でも、この日には会場に集まり顔見知りの方と談笑されています。夏季は午後4時半からの食事ですが、3時間位前から早くも集いの輪ができています。

2. 相談(健康・生活)の場

会場には看護師と社会福祉士が待機しています。看護師は血圧測定や会話を通じて健康状態をチェックし、健康維持・増進のアドバイスをします。昨年9月に初めて来場されたSさん(男性54歳、路上生活者)は、看護師が重病の可能性があると判断し急遽病院に同行しました。診察結果は難治性の病気で即入院。一命をとりとめました。

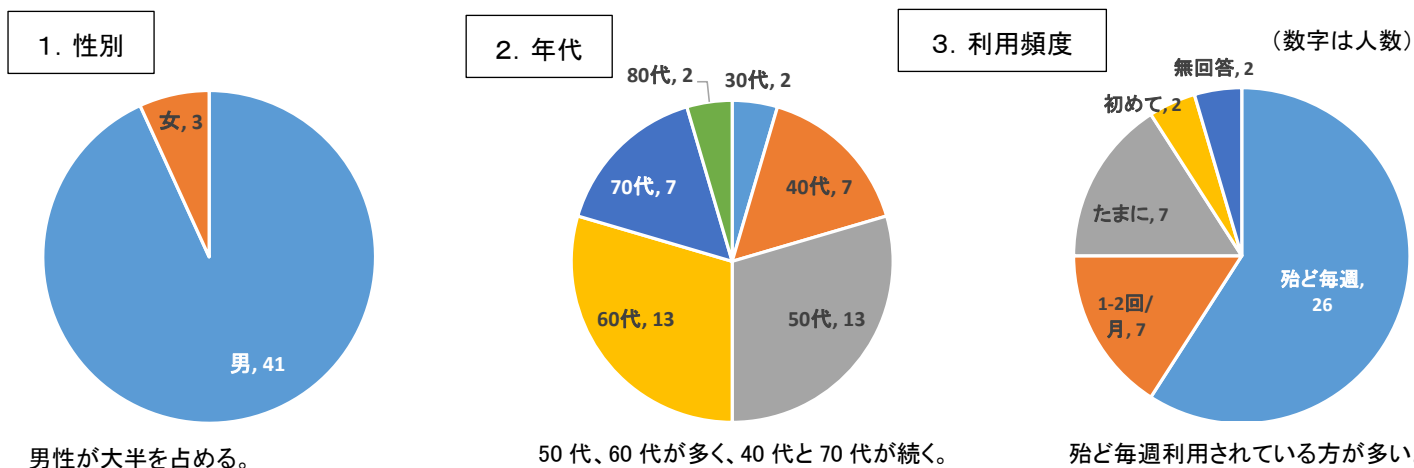
社会福祉士は、生活や仕事の相談を受け、利用できる福祉等の制度を紹介するとともに、必要に応じて行政福祉部門、ハローワーク、年金事務所、法テラス等への同行支援を行っています。

3. 路上生活者発見の場

初めて来場された方に、さりげなく「どこからこられましたか?」と聞くと「公園から」とか「甲府駅のほうから」と返事が返ってくる時があります。翌週以降に会話を深めると「実は住む所がなくて困っている」と具体的に困窮の状態を話して下さるようになります。そのような方には、当NPOの運営するライフ荘(緊急一時宿泊施設)を利用していただきながら、生活保護申請やハローワーク同行、アパート探し支援等を行います。

炊出し利用者アンケート

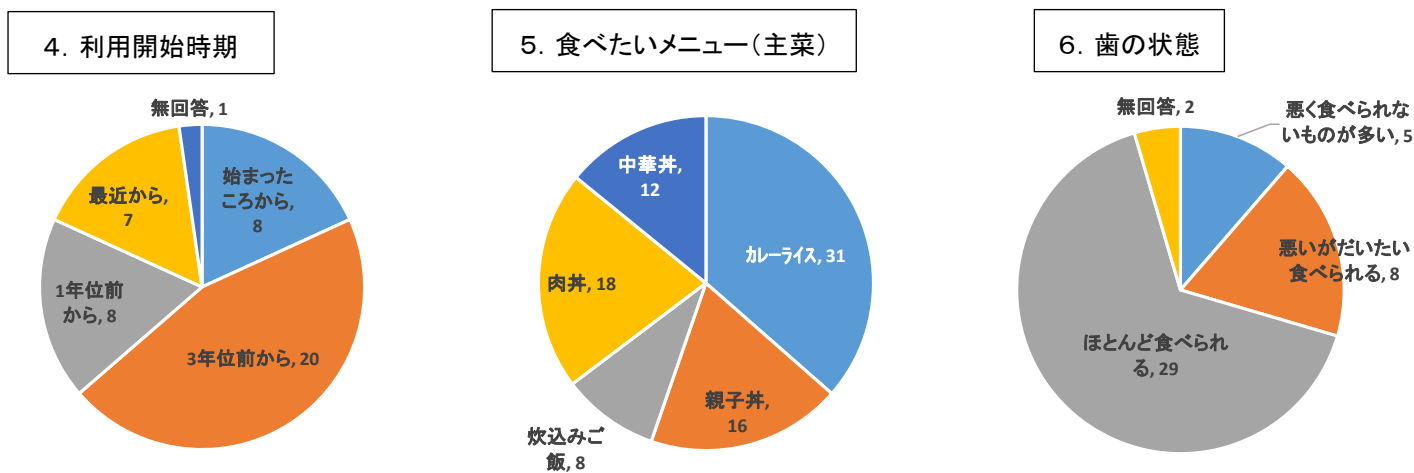
本年8月～9月、炊出し会場において利用者の皆さんにアンケート調査を行いました。(回答44人、無記名)



男性が大半を占める。

50代、60代が多く、40代と70代が続く。

殆ど毎週利用されている方が多い。

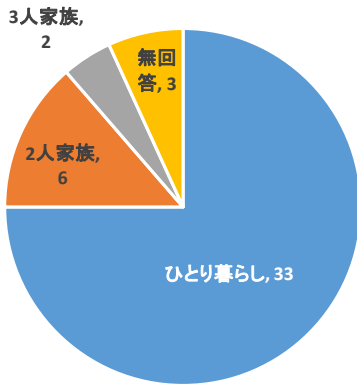


3年以上の長期にわたって利用されている方が多いが、比較的新しい方も1/3を占める。

カレーライスが一番人気。

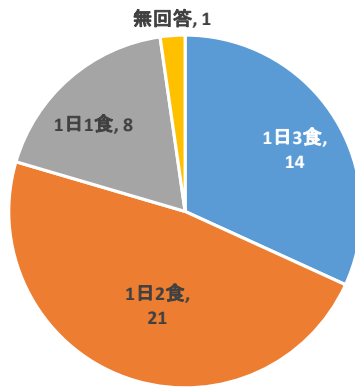
大半の方は歯の状態に関係なく食べられるが、食べられない方(1割強)への配慮も必要。

7. 家族構成



3/4の方が一人暮らし。

8. 1日の食事回数

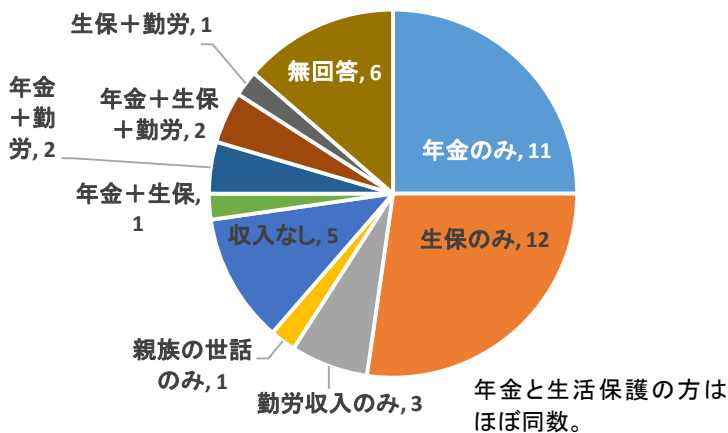


1日2食の方が約半数を占める。

アンケートから見えること

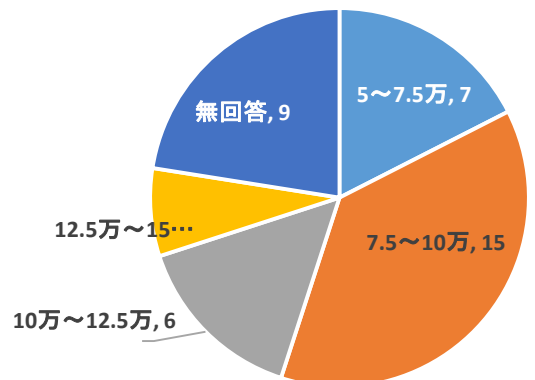
- ・50歳以上の一人暮らしの男性が多く、長期間利用されている。
- ・大半は年金(障害年金含む)と生活保護の受給者で、その比率はほぼ半々である。受給しつつ働いて収入を増やそうとされている方もおられる。
- ・月収10万円以下で暮らしている方が半数以上で、食事回数も切り詰めている。

9. 生活費の収入源



年金と生活保護の方はほぼ同数。

10. 1ヶ月の収入金額(生活保護費含む)



10万円以下の方が半数以上を占める。

炊出し利用者の声

炊出しがホームレス脱却の契機に

Iさん 男性 65歳

他県で失業し、購入していたマンションのローンが払えず競売にかけられてしまいました。住まいを失い当てもなく数年前に山梨に来ました。初めは温泉施設に寝泊まりしていましたが、住所不定のため年金支給が停止になり、昨春秋からは甲府駅構内に寝ていました。

炊出しのことを人づてに聞き、昨年9月からほぼ毎週利用するようになりました。ホームレス中とはとにかく食べ物に困りました。道路にはみ出した民家の柿の実をもいで食べたり、自販機のつり銭忘れを探したり、ゴミ箱を漁ったことも数回あります。時には、衣類や弁当を置いていってくださる親切な人もいましたが、ほとんど毎日空腹との戦いでした。

初めて炊出しに行った時は、思ったよりも大勢の人がいて、美味しくて栄養たっぷりなメニューに驚きました。それ以降、毎週木曜日に来るのを指折り数えて待つようになりました。

炊出しで知り合ったやまなライフサポートの方に生活保護申請を勧められ、昨年12月には受給決定し、ようやくアパートに住むことができました。また、マンションローンの残債整理のため弁護士を紹介いただき、今年7月には自己破産決定となり借金返済の重しからも解放されました。

現在の安定した生活のきっかけとなった炊出しに行っただけで本当に良かったと思っています。現在は年金暮らしですが、十分な金額ではないためこれからも炊出しを利用させていただきたいと思っています。

写真は9月22日(400回目)の炊出しメニュー。ちらし寿司、ポテトサラダ、卵焼、なす炒め他



ボランティアの声

大切に思われる炊き出し

山梨英和大学 1年 守木はる菜さん

私は夏季休暇中、炊き出しに参加させていただきました。はじめに、中心となり活動を行う方から、この炊き出しの歴史や背景、今までの活動経過を伺いました。「私たちが何かをしてあげているとは全く思っていない。させていただいていると思っています。」その時伺ったこの言葉が謙虚であたたかく、印象的でした。

調理中、炊き出しの活動を知る方から食材が届きました。また高齢者施設からは、折り紙で作られた小箱が届きました。高齢者の方にとって、折り紙を折る細かい作業は指先の運動になるそうです。このように、多くの方の支援によって活動が大切に思われていることは素敵だと思います。

炊き出しが400回目を迎えた日にも参加させていただきました。お腹も心も満たされるこの炊き出しは、生活困窮者の心の支えにもなると感じました。一方で、生活困窮者が減少していないことも感じました。これからも、多くの協力と活動を行う方々のあたたかい心で溢れるこの炊き出しが続いてほしいです。

多くの個人や団体等に支えられている炊出し

400 回にも及ぶ炊出しが継続できたのは、大勢のボランティアさんの協力、団体や農家からの食材等の寄付に支えられてきたためです。紙面を借りて心から御礼申し上げます。

個人

- ・一般市民
- ・人権擁護団体関係者
- ・キリスト教会関係者
- ・その他
(調理ボランティア)
(食品、食材提供)



学校（生徒、学生）

- ・山梨県立大学（調理）
- ・英和大学、英和中学、英和高校（調理）
- ・共立高等看護学院（調理、健康相談）

利用者

団体

- ・認定 NPO 法人スペースふう（リユース食器提供）
- ・NPO 法人フードバンク山梨（食品提供）
- ・社会福祉法人八ヶ岳名水会（調理、米・野菜提供）
- ・デイサービスだんらんの家甲府大里（おやつ提供）
- ・カトリック甲府教会（食事会場、厨房提供）

農家、農園

- ・食材提供
(野菜、果物、卵、米)



ボランティアさん募集

当 NPO の活動に協力していただけるボランティアを募集しています。詳細につきましてはお気軽にお問合せください。

1. 炊出しボランティア

- ・毎週木曜日 午後 2 時～5 時（一部でも可）、カトリック甲府教会にて
- ・調理、配食、片付け等のお手伝いをさせていただきます。

2. 見守りパトロール

- ・隔月第 4 日曜日 午後 2 時～4 時 30 分頃 カトリック甲府教会集合
(8月、12月は夜間パトロールとなります。詳細は別途お問い合わせください。)
- ・数グループに分かれ、甲府市と周辺部をパトロールし、路上生活者の発見や安否確認をします。

物品のご寄付を募っています

路上生活をされていた方がアパートでの生活を始めるにあたり、様々な生活用品が必要になります。多くのご寄付をいただいておりますが、現在右記の物品が特に必要です。ご連絡いただきましたら当方より受け取りに伺いますのでよろしく願いいたします。

小型冷蔵庫、洗濯機、電子レンジ
小型テレビ、電気炊飯器、コタツ、
電気ポット、自転車、カーテン

会員募集中です

やまなしライフサポートの活動を資金面で支えてくださる方を募集しています。

会員(当団体を支援し活動に参加して下さる方。総会での議決権有り)	年会費 個人 5,000 円 団体 10,000 円
賛助会員(当団体の活動を応援して下さる方)	年会費 個人 5,000 円 団体 10,000 円

入会申込書は、やまなしライフサポートのホームページ(<http://yls.or.jp/>)からダウンロードすることができます。

また、お電話いただければ郵送させていただきます。